

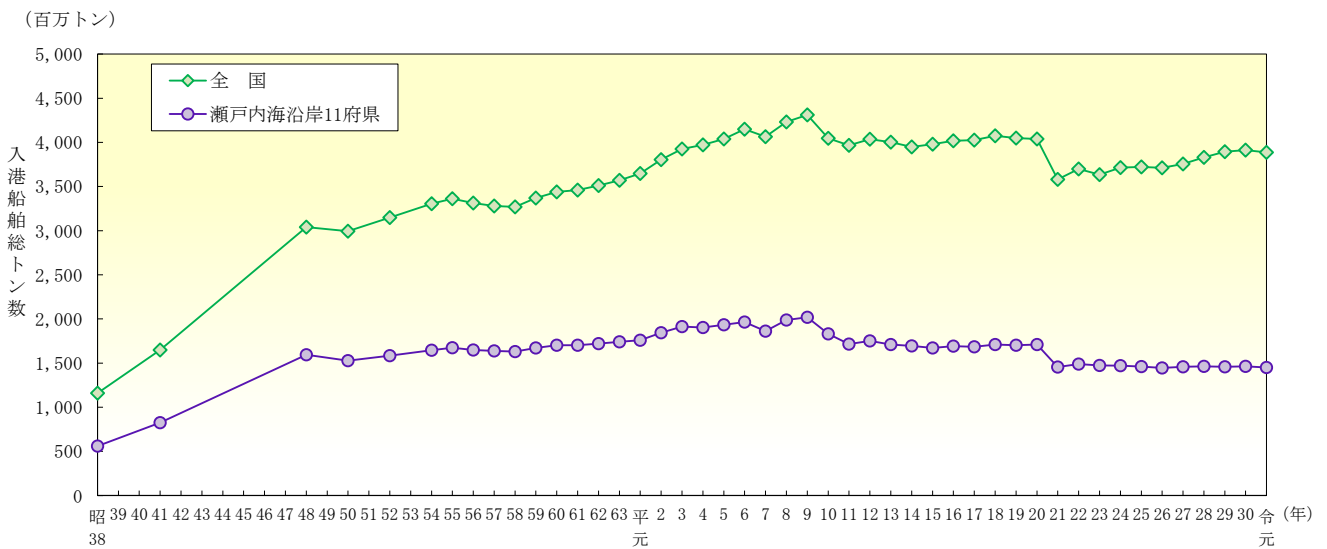
2 産業の現況

2.4 海運等の現況

瀬戸内海における令和元年の入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量は、全国の約37～41%の割合を占めている（図2-10、2-11）。入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量はともに、昭和38年から昭和48年にかけて2倍以上に急増しその後、ほぼ横ばいで推移している。

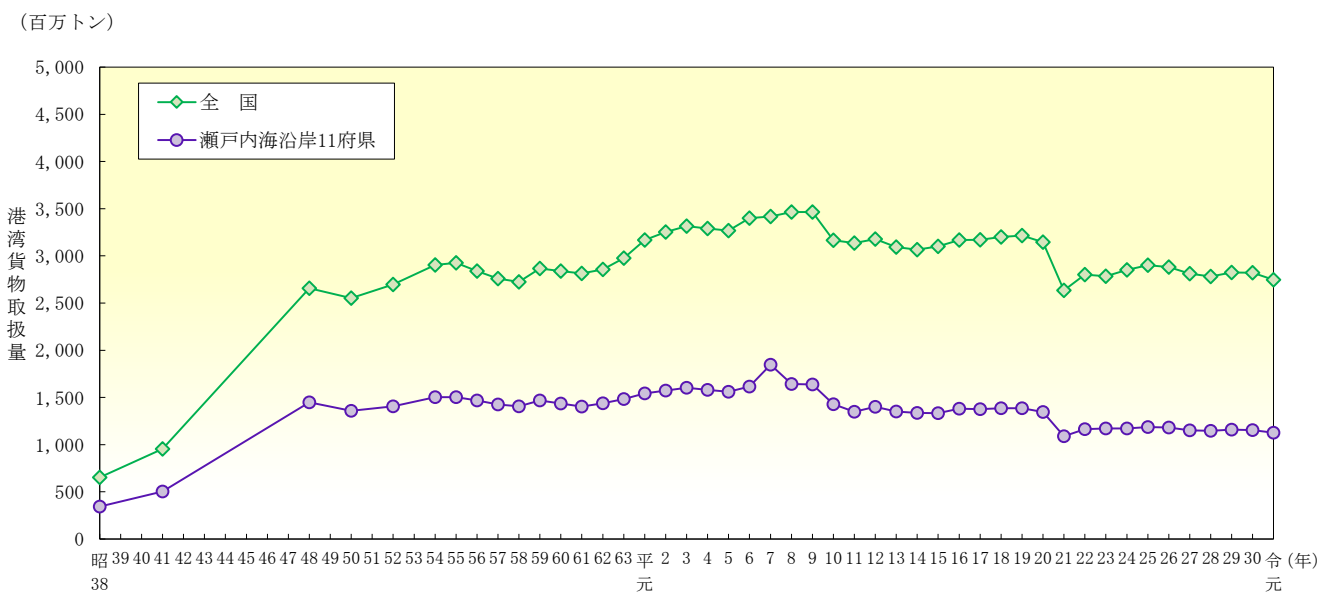
また、令和2年度の主要狭水道における1日平均の通航船舶隻数は、瀬戸内海で最も多かった明石海峡で615隻となっており、令和元年度の東京湾口の浦賀水道における520隻^{注)}に比較して多い（図2-13）。府県別入港船舶・貨物利用状況と瀬戸内海の港湾・航路を表2-7、図2-12に示す。

注) 令和2年度「浦賀水道」未実施



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図2-10 瀬戸内海沿岸11府県における入港船舶総トン数の推移



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図2-11 瀬戸内海沿岸11府県における港湾貨物取扱量の推移